

「中小企業の雇用・賃金動向」について

中小企業には、人手の過不足状況や雇用調整、賃金の見直し、採用を行う場合の、求める人材の確保といった様々な問題があります。そのような状況の中、中小企業経営者の皆さまに「雇用・賃金動向」についてお聴きしました。
(回答数343先)

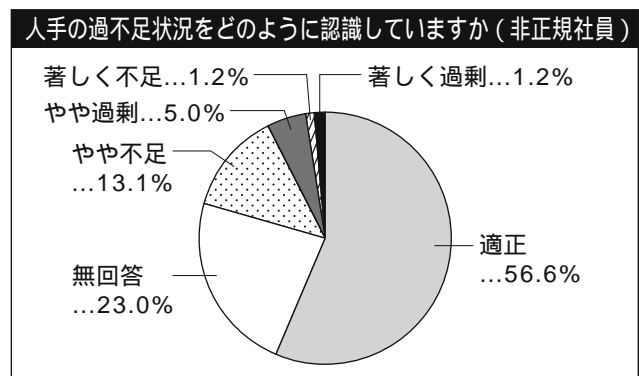
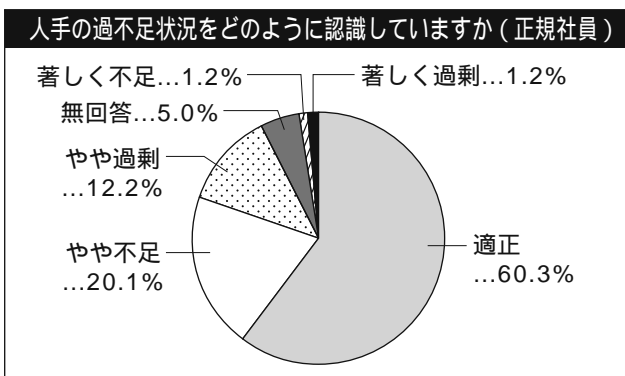
人手の過不足状況をどのように認識していますか。(正規社員)

...「適正」が60.3%

人手の過不足状況をどのように認識していますか。(非正規社員)

...「適正」が56.6%

人手の過不足状況については、正規社員、非正規社員とも「適正」とする割合が最も高くなっていますが、正規社員では、「著しく不足」と「やや不足」の合計が21.3%と、「著しく過剰」と「やや過剰」の合計の13.4%を上回っています。非正規社員でも「著しく不足」と「やや不足」の合計が14.3%と、「著しく過剰」と「やや過剰」の合計の6.2%を上回っており、人手不足となっています。



今後1～2年程度の間に入手不足感が強まった場合、どの雇用形態で人手を確保しますか。

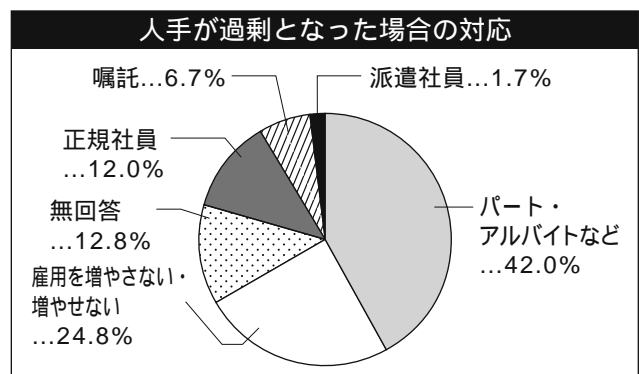
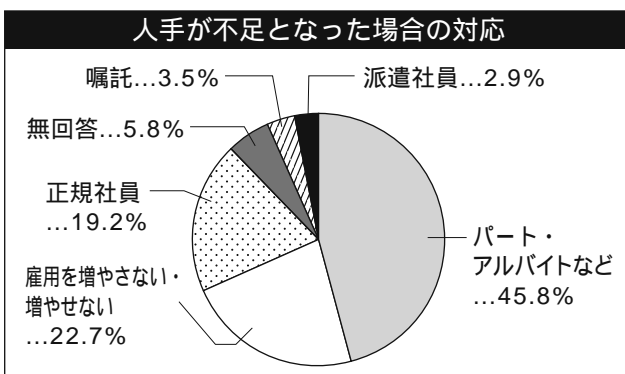
...「パート・アルバイトなど」が45.8%

今後1～2年程度の間に入手過剰感が強まった場合、どの雇用形態から調整しますか。

...「パート・アルバイトなど」が42.0%

人手が不足の場合に入手を確保する雇用形態は、「パート・アルバイトなど」が45.8%、「雇用を増やさない。増やせない」が22.7%、「正規社員」が19.2%となっています。

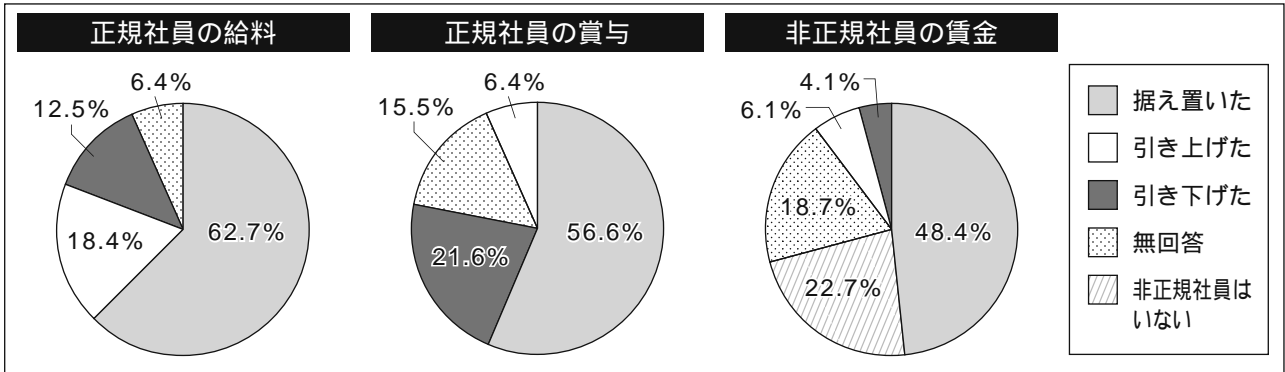
人手が過剰な場合の調整についても、「パート・アルバイトなど」が42.0%、「雇用を減らさない。減らせない」が24.8%、「正規社員」が12.0%の順となっています。



過去1年程度の間に、全体として賃金の見直しを実施しましたか。

- ...正規社員の給料を「据え置いた」が62.7%
- ...正規社員の賞与を「据え置いた」が56.6%
- ...非正規社員の賃金を「据え置いた」が48.4%

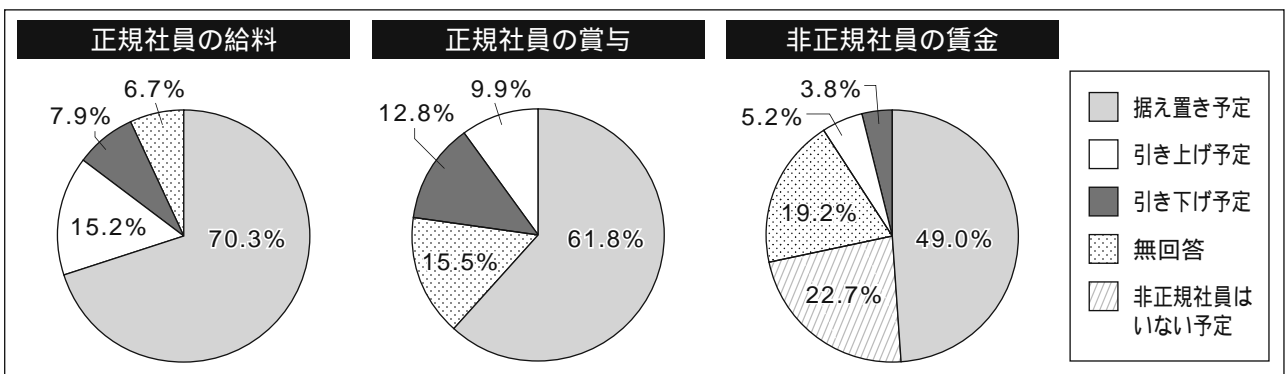
過去1年程度の間実施した賃金の見直しについては、正規社員の給料および賞与、非正規社員の賃金とも、「据え置いた」がトップとなっています。正規社員の給料および賞与を「引き上げた」割合が24.8%と「引き下げた」割合34.1%を下回りました。また非正規社員の賃金については「引き上げた」「引き下げた」の割合はひとケタとなっています。



今後1年程度の間、賃金改定の方向性について

- ...正規社員の給料を「据え置き予定」が70.3%
- ...正規社員の賞与を「据え置き予定」が61.8%
- ...非正規社員の賃金を「据え置き予定」が49.0%

今年1年程度の間賃金改定の方向性については、正規社員の給料および賞与、非正規社員の賃金とも、「据え置き予定」がトップとなっています。次いで正規社員の賃金で「引き上げ予定」が15.2%、正規社員の賞与で「引き下げ予定」が12.8%、非正規社員の賃金で「非正規社員はいない予定」が22.7%となっています。



仮に新卒採用や中途採用を行う場合、どのような問題点がありますか。

- ...「求める能力を持つ人材が応募してこない」が27.8%

仮に新卒や中途採用を行う場合の問題点としては、「求める能力を持つ人材が応募してこない」が27.8%、次いで、「求職者が求める賃金を支払えない」が18.5%、「職種として求職者が少ない」が14.5%、「教育訓練・研修が十分に行えない」が12.2%の順となっています。

